

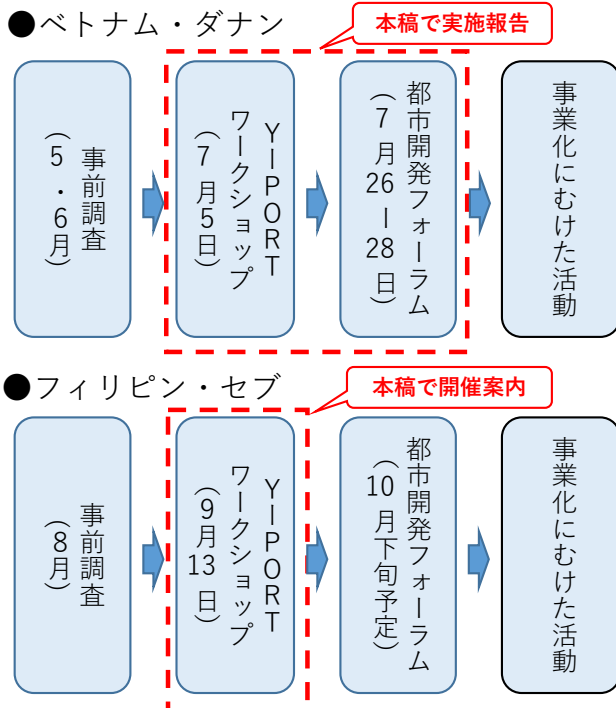
7月に第8回ダナン都市開発フォーラムを開催しました。

～ベトナム・ダナンが抱える都市課題に対して横浜発都市ソリューションを提案しました～
～同様な取組をフィリピン・セブで開催します。企業の皆様の御参加をお待ちしております～

横浜市 Y-PORT 事業では、市内企業と連携しながら海外都市の都市課題の解決に資する案件発掘や、事業化調査及び実証事業等の推進による事業化に取り組んでいます。

今年度は、ベトナム・ダナンおよびフィリピン・メトロセブを対象に下図の日程で Y-PORT ワークショップ(横浜市内)と現地での都市開発フォーラムを開催しています。

本稿では、ダナンを対象とした都市開発フォーラム等の開催結果について御報告します。9月13日にはメトロセブを対象とした Y-PORT ワークショップを開催します。企業の皆様の御参加をお待ちしています。



1. 第26回 Y-PORT ワークショップの開催報告 (7月5日)

横浜市内企業の皆様を中心に 30 社・団体、42 名の方に参加いただき、2018 年 7 月 5 日に第 26 回 Y-

PORT ワークショップを開催しました。

第 26 回 Y-PORT ワークショップ 開催結果

日程：2018 年 7 月 5 日(木) 14:00～16:00

場所：横浜国際協力センター6F 会議室

<参加者数>

参加者数：64 名

※横浜市(国際局及び資源循環局)関係局含む

第 8 回ダナン都市開発フォーラムに向けて、ダナン市に提案する横浜発都市ソリューション(廃棄物、漁港整備、省エネ、防災、都市交通の 5 分野)についてのグループディスカッションを行いました。



2. 第8回ダナン都市開発フォーラム開催報告 (7月26日～28日)

横浜市内企業を中心に 23 社・団体(41 名)の参加のもと、2018 年 7 月 26 日～28 日にベトナム国ダナン市において、第 8 回都市開発フォーラムを開催しました。3 日間にわたるフォーラムでは、1 日目にダナン市における 5 つの課題テーマについて協議する分科会を開催し、2 日目の本会議において、分科会の協議結果をもとに今後のダナン市と横浜市との連携強化に向けた取組について協議しました。3 日目に参加企業等との現地合同調査を行いました。

第8回ダナン都市開発フォーラム 開催結果

日程：7月26日(木) 終日 分科会
 7月27日(金) 午前 本会議
 午後 現地調査
 7月28日(土) 午前 現地調査

<参加機関>

ダナン市:人民委員会、計画投資局、財政局、建設局、商工局、交通局、天然資源環境局、農業地域開発局、外務局、情報通信局、ダナン市投資促進支援委員会、ハイテクパーク管理委員会、工業団地管理委員会、気候変動対策調整室、都市環境公社、Da Nang Port Company、Da Nang Power Company、Thuan Phuoc Seafoods and Trading Corporation 等現地企業 20社以上

横浜市:国際局、資源循環局、健康福祉局

国・開発援助機関・国際機関:天然資源環境省、国際協力機構(JICA)

民間企業・団体: ERM 日本(株)、エイコーエコスパ(株)、AGC アジアパシフィック(株)、NR グリーンラインズ ロジスティクス ベトナム、カーボンフリーコンサルティング(株)、(株)ゲーン、JFE エンジニアリング(株)、JGC ベトナム、地盤ネット(株)、(株)ストリートデザイン、武松商事(株)、(公法)地球環境戦略研究機関、東亜建設工業(株)、戸田建設(株)、日本工営(株)、(公社)日本交通計画協会、(株)ホンマ、(株)マクニカ、丸紅トランスポートエンジニアリング(株)、三菱重工エンジニアリング(株)、ムラタ計測器サービス(株)、横浜国立大学(五十音順)

事務局企業等: Y-PORT センター専門家

(1) 分科会

分科会では、ダナン市が抱える5つの課題をテーマに、横浜市と市内企業等とで企画検討した都市ソリューションの提案や、公民連携による事業形成の進め方などについて、ダナン市関係部局及び多くの現地民間事業者等と意見交換を行いました。

① 固形廃棄物・リサイクル・汚泥処理

ダナン市から、カンソン処分場(ダナン市内で唯一の最終処分場)や廃棄物管理体制の現状、また、調査・検討中の固形廃棄物複合施設プロジェクトに関する説明がありました。

横浜市からは、過去のフォーラムにおいて議論した事項を振り返った上で、現在実施中である JICA 草の根事業による廃棄物分別推進の現状と

課題を共有すると共に、有機廃棄物処理に係る社会実験プロジェクトの提案や、統合的な廃棄物管理の実現に向けた提言等を行いました。

また、両市の更なる連携に向けて、ダナン市から、同市の10年間の環境都市計画に対する評価手法などにおいて、横浜市及び市内企業の経験と知見を共有してほしいとの要請がありました。



分科会の様子(固形廃棄物・リサイクル・汚泥処理)

② 漁港地区再開発

ダナン市農業地域開発局長より、トクアン漁港については、中部地域全体の水産業の拠点としての近代的かつ持続可能な漁港の発展に向けて、単なる漁港整備ではなく観光スポット化も目指していること、現在急増している寄港漁船の避泊機能強化や周辺からの排水流入による水質汚染問題への対応が必要なこと等の再開発ニーズの説明がありました。

横浜市からは、大型船に対応した新漁港整備も含めたマスタープラン策定の必要性を説明したほか、ムラタ計測器サービス(株)の下水処理場や水産加工団地からの排水を対象にした水質モニタリング調査の実施に向けた協議を行いました。

マスタープランの実現に向けて、横浜市とダナン市で協力していくことが確認されました。



分科会の様子(漁港地区再開発)

③ 省エネ(ビル・ホテル・工場)

ダナン市商工局副局長より、ダナンにおける省エネニーズの高まりについて、ホテルや店舗のほか、工業団地における実装的な設備導入が求められているとの説明がありました。

横浜市側からは、横浜国立大学から、住宅や商業施設を対象とした簡易エネルギー測定による省エネルギー分析と改善のための事業提案がありました。この提案について、ダナン市と横浜国立大学が連携し、事業化を目指していく事が確認されました。



分科会の様子(省エネ)

④ 防災システム

ダナン市農業地域開発局副局長より、ダナンにおける土砂災害の状況と、それに対する事前対策として、設備や人材が不足しているとの説明がありました。

横浜市側からは、雨量の計測や警報システム、災害予測シミュレーション、ハザードマップのほか、海岸侵食への対応方策や地盤調査の必要性など新たな災害リスクに対する技術的な提案、さらにタイムラインアクションプランなど組織的な対応方策について提案を行いました。

提案を受けて、ダナン市側から高い関心が示され、具体的な整備について、事業化、実現化に向けた行動計画を策定していく考えが示されました。



分科会の様子(漁港地区再開発)

⑤ 都市交通(公共交通)

ダナン市交通局長より、ダナンの近年の交通事情として、渋滞や環境保全、インフラ不足などの課題が示されたほか、交通局計画部より、ダナン市の都市交通の現状・課題、及び公共交通の整備計画などについて説明がありました。

これに対し、日本交通計画協会より、高架型AGTの導入に関し、事業構想を提案しました。AGTに対しダナン市側からは、景観的、運営コスト的な点で質疑が寄せられたほか、具体的な車両メーカーの永続性などにも関心が示されました。

交通局長より、ダナン市の総合マスタープラン(2030年までの計画、2050年までのビジョン)の改訂時期を見据えて、AGTの導入には、AGTが他の交通システムとの比較において最適であるとする検討が必要とのコメントがあり、今後、ダナン市及び日本交通計画協会とで検討を続けることが確認されました。



分科会の様子(都市交通)

(2) 本会議

2日目に開催された本会議においては、前日の分科会の協議結果の共有が行われ、さらに、各テーマにおけるダナン市・横浜市の今後の連携方針について、以下のとおり確認されました。

- ・廃棄物分別に係る JICA 草の根事業について、対象をホテルやレストラン、商業施設にも拡大する方向で推進する。
- ・食品残渣リサイクルに係る社会実験の提案について、ダナン市が URENCO やホテル・レストラン等の参画を促進することに協力する。
- ・固形廃棄物複合施設プロジェクトについて、汚泥処理の機能を付加することの検討を継続する。
- ・トクアン地区再開発について、ダナン市の予算でマスタープラン策定を行うことの検討を始める。
- ・省エネの促進について、JICA 草の根事業の活用を念頭に両市のステークホルダーが協力して進める。
- ・防災について、避難訓練、早期警報、災害の強化に関する提案に関する議論の深堀を行う。
- ・都市交通について、ダナン市の総合マスタープラン(2030年までの計画、2050年までのビジョン)の改定時期を見据えて、他の交通システムとの比較も含めて AGT の導入を引き続き検討する。
- ・今後開催される両国環境省による環境政策対話や、両市がメンバーである CITYNET の実行委員会、横浜市が主催するアジア・スマートシティ会議等の機会を活用して、両市の連携と対話を継続していく。
- ・ダナン市は、世界銀行のプログラムである Global Platform for Sustainable Cities (GPSC)の活用に向けて、引き続き取り組む。



横浜市内企業等からの事業提案



ベトナム国環境省や JICA 等とのディスカッション



ダナン人民委員会副委員長からの講評と今後の方針

(3) 現地調査(カンソン廃棄物最終処分場)

本会議閉会后、カンソン廃棄物最終処分場の視察調査を行いました。現地では、ダナン市天然資源環境局の担当者から、施設の概要や運用状況について詳細な説明を頂きました。



現地調査の様子(カンソン廃棄物最終処分場)

(4) 現地調査(ハイテクパーク、トクアン漁港他)

最終日にリエンチュウ港～ハイテクパーク～トクアン漁港を訪問視察しました。



現地調査の様子(リエンチュウ港)



現地調査の様子(ハイテクパーク工業団地)



現地調査の様子(トクアン漁港)

3. メトロセブ都市開発フォーラムに向けた Y-PORT ワークショップ(9月 13 日:横浜市内)への参加企業の募集

ダナンに続きフィリピン・メトロセブにおいて 10 月下旬にメトロセブ都市開発フォーラムを開催予定です。これに先立ち、現地の都市課題等の

共有のため、Y-PORT ワークショップを開催します。企業の皆様とテーマごとに協議を行い、課題解決提案を共に創り上げたく、皆様の御参加をお待ちしております。

第 27 回 Y-PORT ワークショップ開催案内

日時：平成 30 年 9 月 13 日(木)14:00～

場所：パシフィコ横浜国際協力センター6F 会議室

- ・メトロセブの都市課題として挙げられている次の 3 つのテーマでグループディスカッションを行います。
- ・以下のテーマについて、グループに分かれて議論を行い、メトロセブ都市開発フォーラムにおける事業提案の素案を作成します。

＜グループディスカッションテーマ＞

テーマ①：グリーンビルディング(汚水・排水処理)

テーマ②：グリーンビルディング(省エネ・エネルギーマネジメント)

テーマ③：MCDGs に貢献しうる事業発掘(廃棄物、防災・交通、河川環境、浄水等)

※詳細について横浜市国際局 Y-PORT 事業ウェブサイトをご覧ください

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/yport/yportworkshop.html>

■申込み先：横浜市国際協力課

ki-yport@city.yokohama.jp 宛に下記の内容を記載の上、電子メールを送信ください。

- (1)会社名
- (2)所属
- (3)氏名・役職
- (4)参加を希望するテーマ①～③のいずれか 1 つ
③の場合は具体的な分野をご提案ください。
- (5)フィリピン・セブ合同調査への参加予定の有無

お問合せ先

横浜市国際局国際協力課
〒231-0015 横浜市中区尾上町 1-8
関内新井ビル 3 階
Tel: 045-671-4396 Fax: 045-664-7145
E-mail: ki-yport@city.yokohama.jp